



ロータリーニュース

ROTARY NEWS

発行所
東京府中
ロータリークラブ
広報委員会

東京都府中市緑町3-5-2
(むさし府中商工会議所会館4階)
TEL (042) 366-6200
FAX (042) 369-0010

東京府中ロータリークラブホームページ <http://www.tokyo-fuchu-rc.org/>



「一層のご活躍を」

府中市長 高野 律雄

東京府中ロータリークラブの皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

貴クラブにおかれましては、創立以来、社会奉仕の崇高な理念のもと、市内小中学生を対象とする作文コンクールや、小中学校教諭を対象とする教育功労者顕彰事業など、教育や青少年の健全育成に力を注がれているほか、地域に密着した事業はもとより、広く世界に目を向けた海外青少年交

換派遣事業などの国際的な活動も展開され、これまでの多くのご功績に、深く敬意を表しますとともに、青少年の健全育成をはじめ、市政の各般にわたり、ご理解、ご協力を賜っておりまことに、厚くお礼申し上げます。

本市では、本年度の市政運営にあたり、「市民生活の安定と希望」、「事業の変化と創造」、「未来へつなげる連携と協働」という3つのテーマを掲げ、成熟

した都市としてさらなる発展をめざし、「みんなで創る笑顔あふれる住みよいまち」の実現に努めてまいりまことに、厚くお礼申し上げます。

結びに、東京府中ロータリークラブのますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。



「わが家の作文コンクール」

東京府中ロータリークラブ
会長 野口 忠直

本年、四十五歳になる私の末子の次男が、まだ小学生であった頃、東京府中ロータリークラブの作文コンクールで「佳作」を頂戴したことがありました。題は「私の家庭」であったと思います。今は亡き私の母親は、当時自宅の庭仕事を日課とする程、園芸などを楽しんでおりましたが、次男も進んでその手伝いなどをして居りました。

作文はこの庭仕事の状況を書いたものでした。私の母が「オーイ助手！こっちは来て、この仕事を手伝って！」と叫ぶと、飛んで行って庭仕事を手伝ったことを

書いたものでした。「佳作」の受賞は殊の外、母を喜ばせました。原稿が戻った日、母は街へ出てシンプルな額を買って求め、その中に賞状と原稿を入れました。この時、私は原稿を読むことが出来たのです。賞状と原稿は、額に納められ、わが家の居間に高々と掲げられました。今はありませんので、恐らく、本人が持っているものと思われまふ。

額に賞状と原稿が収められた時の、今は亡き母と亡き妻の嬉しそうな顔は、今でも眼前に浮び、決して忘れることの出来ない思い出となつて鮮明に蘇ります。

今年の作文コンクールは、第42回となりました。本当に永い間、各小中学校の先生方を始め、大勢の皆様の大変なご尽力によって続けられたのです。本年も一万名以上の児童生徒の応募がありました。これを、極めて丁寧に審査するのは、まさに大変な作業であります。ロータリーのメンバー、事務局も大変な作業を期限つきで熟すことによつて、はじめてこの大事業は完遂することが出来るのです。作文コンクールがあったからこそ、わが家での忘れられない思い出を記しました。

本年度活動の

(2015.7.1～2016.6.30)



▲交換留学生と
ホストファミリー



▲ブラジルからの交換留学生



▲交換留学生帰国報告会にて



▲交換留学生と
カウンセラー御夫妻



▲大國魂神社清掃活動▶



▲国連アジア極東犯罪防止研修所との
交流のようす



(お礼を述べられる野村裕子先生)

第34回 教育功労者顕彰式

教育功労者の業績

日時：平成28年3月28日 (月)
場所：大國魂神社 参集殿



(お礼を述べられる市長)

● 中学校の部 ●

国語の教員として、ICTの活用や「わかる」授業の工夫改善に尽力し、その指導力は秀でたものがあります。また、作文指導では、生徒の思考を深めさせ自分の考えが相手に伝わる表現力をつけるための言語活動を充実させ、各種の作文コンクールに出品させるなど意欲喚起をさせています。生徒指導においては、特別支援教育コーディネーターとして、指導が難しい生徒についてスクールカウンセラー等と対応策を検討しています。それを学年教員や教科担当者にも共通認識、実践を図ったことにより、不適応を起こす生徒が減少しました。また、保護者の対応を丁寧に行い、生徒には教育相談の対応で粘り強く「だめなものだめ」と規範意識の醸成を図っています。学校運営では2学年主任として、ルールとリレーションのある学年経営を行い、リーダーシップを発揮しています。若手教員をはじめとした人材をOJTにより育て、活力のある学年組織をつくっています。



野村 裕子
主任教諭
府中第四中学校
教職歴 33年
市内在職 17年



今井 紀子
主任教諭
府中第八中学校
教職歴 34年
市内在職 23年

国語の教員及び司書教諭として、朝読書を実施して生徒の読書離れを改善するなど、読書活動を推進しています。学校図書補助員と連携をしながら、課題図書を選定し各学級に設置したことにより、全校生徒の読む習慣が定着しました。それは、生徒の国語力を養うことに大きな効果がみられ、特に中学生としての読解力を高めることにつながりました。学校運営では、各教科や総合的な学習の時間などでの図書館利用改善を図りました。自ら師範授業を行い、図書資料を使った調べ学習の教材を開発したことにより、どの教科どの教員でも図書館学習ができる環境をつくり、学習効果を高めています。研究活動では国語教育と図書館教育に努め、府中市内の作文コンクールの審査員や読書活動の推進に力を尽くしています。



上原 理恵
主任教諭
府中第十中学校
教職歴 34年1ヶ月
市内在職 22年

音楽科の教員として、専門的な知識と高い指導力は秀でたものがあります。特に、合唱における指導力が高く、合唱指導を通して生徒の豊かな感性を育むとともに、歌うことの喜びや楽しさを味わわせることで、生徒の自尊感情の育成も図っています。さらに、部活動においても吹奏楽部の指導に取り組み、地域コミュニティ行事への参加や東京都中学校吹奏楽コンクール金賞受賞などの成果が、学校への信頼を高めることに繋がっています。また、市内中学生を対象とした府中市連合合唱団の立ち上げから、意欲的に運営や指導を行っています。そして、連合音楽会や府中市成人の集いなどでの発表を通して、中学生に府中市民としての一体感と誇りを自覚させています。音楽教育に意欲的に取り組む姿勢は、校務運営を活性化させ、学校経営においても他の教員の模範となっています。



晴れの教育功労者 (前列)

第三十四回の選考を終えて

選考委員長 間瀬 静夫

教育功労者顕彰事業は、今回で三四回目を迎えました。これまでに二九七名の先生方が顕彰され、府中市の教育の推進を担う上で、大きな貢献を果たされてきました。それだけにこの選考は大変責任が重く、十名の選考委員はこの事業の趣旨に副するように万全を期して選考にあたりました。学校を訪問しますと、若い先生が多くなつたなどの印象を持ちます。教育活動の要は教師ですから、若手教員の育成は、学校にとって大きな課題です。それだけに、幹部の先生方の役割も大きくなつてきています。

そういった状況の中で、市内小中学校の校長先生方から教育功労者としてふさわしい先生方のご推薦をいただきました。推薦された先生方は、各学級の中核として教育活動を支え、先頭に立って活躍し、児童生徒から慕われ、保護者や地域からも信頼を寄せられています。

ところが、推薦文の行間からも読み取ることができました。それだけに選考の過程において、慎重かつ丁寧に審議を重ね、小学校五名、中学校三名、合計八名の先生方を候補者として推薦し、二月の運営委員会での最終決定を経て、教育功労者として顕彰されました。

今回顕彰された先生方は、小学校では、理科教育、算数教育、音楽教育、道徳教育の充実、生活指導の充実、優れた学年・学級経営、若手教員の育成、学校運営の貢献等で大きな役割を果たされた。また中学校では、優れた国語指導、読書活動の推進と図書館運営の活性化、優れた音楽指導と学校運営の貢献等での役割が高く評価されました。

本事業が、教育の振興に大きく寄与されていることに敬意を表します。今後とも継続していただきますようお願い申し上げます。

● 小学校の部 ●

理科教育を専門とし、理科授業の改善に向けて、常に努力しています。校内研究で3年間理科授業の研究を推進した際には、専門性を発揮して問題解決学習を充実させ、基礎基本の定着、思考力・表現力の育成を図る授業改善並びに学力向上に貢献しました。また、生活指導主幹教諭として、児童の校内生活や安全管理、健全育成について、リーダーとして力を発揮しています。児童への指導及び教職員への指導・助言に努め、日常の挨拶や時間遵守等の学校のルールを定着させ、都内で有数の大規模校における生活指導を的確に推進しています。さらに、5年担任と6年担任を繰り返して担当し、学年主任としてもリーダーシップを発揮し、授業研究や学校行事を進める中で、若手教員への働きかけと率先垂範する姿は、他の教員の手本となり若手教員の育成につながっています。

府中市の生活指導主任として11年間児童の健全育成のために尽力し、全校一致の生活指導を徹底しています。課題を抱えているクラスの教員には個別で指導し、児童のより良い成長のために、一緒に考えていく姿勢が他の教員の手本となっています。また、指導困難な学級を担任し、数か月で立て直しを実現しました。真に児童を理解し、共感的な指導を行うことで、児童がどんどん子供らしい表情に変わっていききました。そして、保護者にも子育ての適切な助言を行うとともに、学級通信等でタイムリーに啓発を行っています。さらに「道徳の時間」の指導は、児童の考えを引き出し、道徳的な価値に気付かせる大変すばらしい授業で、若手教員ばかりでなく、中堅・ベテラン教員の師範となるものです。それは府中市全体及び東京都の道徳教育推進にも貢献しています。



田口 修
主幹教諭
府中第二小学校
教職歴 22年
市内在職 11年



山田 令子
主幹教諭
府中第六小学校
教職歴 32年11ヶ月
市内在職 19年



青嶋 美保
主幹教諭
府中第九小学校
教職歴 32年11ヶ月
市内在職 7年



山片由紀子
主任教諭
府中第十小学校
教職歴 31年11ヶ月
市内在職 18年



久我 信之
主任教諭
府中市立南白糸台小学校
教職歴 33年7ヶ月
市内在職 14年

音楽専科として、児童の興味・関心を高め、児童のもてる力を引き出す指導を継続し、児童が音楽に親しむ学校文化を根付かせています。音楽の授業は、東京都音楽教育研究会において高い評価を得ており、府中市内はもとより、他地域からも授業参観する教員が多く、後進の育成にも尽力しています。また、生活指導主幹教諭として、生活指導の全体計画作成や校内の組織運営及び進行管理に力を発揮し、学校運営の中核を担っています。生活指導上の問題について、児童及び保護者・地域の方々にきめ細やかな対応を通して解決に導いています。さらに、府中第九小学校の特色ある教育活動「九小合唱団」の指導に力を発揮しており、「みどりの感謝祭」農林水産省主催「東北復興応援コンサート」第40回刑務所まつり「等々にも出演して、称賛の言葉をいただいています。こうした活動を通して、歌を愛する気持ちとボランティア精神を育んでいます。

府中市内の子供のために18年間の長きにわたり小学校教育に、地道に取り組んできました。算数教育を専門として、教材研究と教材開発を積み重ねて算数の指導法を工夫することにより、児童の意欲と学力の向上につながっています。府中市立小中学校教育研究会では算数部に所属して研究を深めています。また、学年主任として学習指導や学校行事において、常に率先して実践し、学年の教員をリードしています。生活指導にも力を発揮して、若手教員に寄り添い丁寧な助言しながら、児童が安全に安心して学校生活を過ごせるよう尽力しています。さらに、PTA活動や地域行事にも積極的に参加し、保護者・地域と一体となって児童を育てることを行動で示しています。こうして誠実に教育に取り組む姿勢は模範となり、職員の志気を高め、保護者・地域からの信頼へとつながり学校経営に大いに貢献しています。

本年度再任用フルタイム2年目で高学年の学年主任として、率先垂範で職務に当たり他の教員の手本となつています。また、学校長の経営方針を受け、学習指導、生活指導、地域・保護者との連携、健全育成、若手教員の指導・育成、たてわり班活動の充実等で多大な功績を残しています。5年生の稲作りでは、細かな配慮で地域協力者との連携を深め、くらのやみ祭の山車巡行にも毎年参加しています。

また、PTAのバレーボールの監督を長年勤めるなど、子供や保護者並びに地域から信頼され温かな支援を得る基礎を築いています。さらに、市主催のソフトラレーボール大会、綱引き大会、自転車競技会に参加し、各大会で優秀な成績をおさめ、子供たちの健全育成にも力を尽くしています。

東京府中ロータリークラブは、教育こそが国家の将来を左右するとの認識に基づき、クラブ創立二十周年の記念事業として本基金を創設いたしました。その趣旨は、市立小中学校において顕著な功績をあげられた先生方を教育功労者として顕彰するというもので、府中市、府中市教育委員会、府中市立小中学校校長会のご協力のもと、三十四年間に297名の先生を顕彰してまいりました。

当クラブは、創立当初より青少年育成に主眼をおいた奉仕活動に注力して参りましたが、教育功労者顕彰事業は四十二年目を迎えた作文コンクールと並び継続事業の柱となっています。時節柄、基金の維持運営には難しい面もありますが、会員一同意義ある限りは続けてゆきたいと考えておりますので、従前の通りご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教育振興基金について

公益信託東京府中ロータリークラブ
教育振興基金運営委員会
委員長 松村 信幸

第42回 作文コンクール

ロータリークラブ賞作品

平成28年 6月25日 (土)

ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥



府中第九小学校 二年三組
かみ山 りん

うれしかったなわとび

わたしは、一年生のときたいいくでなわとびをしました。なわとびのけんていは、「わかばコース」「さくらコース」「けやきコース」があります。わたしは、ようちえんのころから、まえとびとうしろとびのれんしゅうをしていました。だから「わかばコース」はどんどんごうかくすることができました。「あと、あやとびができれば『わかばコース』はごうかくだよ。がんばってね。」といって先生がはんこをおしてくれました。「よし、がんばってごうかくするぞ。」とたいいくのじかんもひる休みもれんしゅうしました。たくさんれんしゅうをしたけれど一かいもとべません。「どうしてとべないのかな。



府中南町小学校 四年二組
石渡 友悠

勇気がでた一言

小学一・二年生のころのぼくは、自分から話しかけるのが苦手で、友達も少なく、あまり外で遊ぶこともありませんでした。下校して家にいると、お母さんに「外で遊んできたら。」と言われたくらいです。ぼくも友達をさそって遊ぼうと、できるかぎりど力をしました。けれど、「いっしょに遊ぼう。」と言う勇気がなく、いつも失敗ばかりでした。時に心で「どうしてできないんだ、みんなはできているのに。」となやんだこともありました。三年生の秋の運動会が終わったころ、ぼくの席の



府中第六中学校 三年二組
五十嵐 奈菜

成長

またやってしまった。私は家にいる母のことを思いうかべてひやっとした。一年生の三学期、汗のにじんだ手に握られているのは、学年末テストの結果表。そこには、今までで史上最悪の順位が書かれていた。前回も、そのまた前回も反省を書くスペースに「次こそがんばります。」と、決意を太字で表しているにも関わらず、また今回も失敗してしまった。どうして勉強するのだろうか。テストなんて意味ないと、その時はずっとそればかりを考えて、言い訳をしてきた。しかし、その考えが変わる出来事が二年生になって初めておこった。それは、職場体験。私には、一番下の子が産まれ

こんななれんしゅうもがんばったのになあ。」とくやしくて、わたしはやめたいなあとおもいました。まわりを見たら、しらいさんが上手にあやとびをしていました。わたしは、おもいきって、「どうやったらとべるの。おしえて。」とききました。そうしたらしらいさんが、「かるくとべばいいよ。手をぎゅっとしてとぶんだよ。」とおしえてくれました。いわれたとおり、手をぎゅっとうさしてとんでみたら、一かいでとぶことができました。「やったあ。とべた。」と、しらいさんもよろこんでくれました。わたしもほんとうにうれしくて、びよんびよんかけとびをしてしまいました。

前にすわっていた、はま口君が、「いっしょに遊ぼうよ、席が近いんだから。何でも言っ。」と声をかけてくれました。(ぼくは、はま口君の言葉がうれしくて、今でもわすれられません。)はま口君とやくそくしたその日は、ひさしぶりに外でサッカーをしたり、おにごっこをして遊びました。ぼくはこの時「外で遊ぶのってこんなに楽しいんだ。」と初めて知りました。その日から心が入れかわったみたいで、自然と「今日遊ぼうよ。どこで遊ぶ？」という言葉がでてくるようになりました。大親友となつたはま口君の一言「いっしょに遊ぼうよ」の言葉のおかげで、ぼくは、友達を作る勇気が持てました。そして今では、たくさんさんの友達と外で元氣よく遊ぶことができるようになりました。友達を作ると気持ちがよくて、学校に行くのがどんどん楽しくなりま

てからの夢がある。だから、職場体験先の希望アンケートが私のもとにくばられた時には、うれしくておかしくなりそうになった。不安は一つもなかった。それから何日もたって、体験先も決まり、事前訪問も終わり、とうとうその日がやってきた。私が希望した体験先は「押立第二保育園」。私の夢は保育士になること。この体験で、将来のために何が得られるのかと、わくわくしていた。充実した一週間を過ごしていく中で、私は大学生のひと仕事をすることになった。その人も職場体験中だという。手作りのエプロンをまとったその姿から、私はその人が体験中だなんて気がつかなかった。二人で色々話ながら作業をしていくうちに、勉強の話題になった。少々恥しかったが、私は勉強の悩みや疑問について話した。その人は、私の話を最後まで聞いてくれ、優しく一つ一つに答えてくれた。それを聞いていて、私はこんな人になりたいな

とんだほうがいいんだよ。」としらいさんがおしえてくれました。わたしはうれしくなって、「わかった。がんばってみる。」と、もう一ど二じゅうとびにチャレンジしました。こんどは、右足だけとぶことができました。そしてまた、「つま先でとぶといいよ。あとすこし、がんばって。」といわれたので、ゆっくり休んでから、かるくとびました。そして「やったあ。とべた。」と大きなこえでさけんでしまいました。

す。そして元氣よく「おはよう。」と言える毎日です。これがぼくの成長です。成長すること、できるようになることは、自分のど力や練習でできるようになることもあります。でも、ぼくは自分ではどうしてもできなかったことが、友達の力をかりてできるようになりました。たとえ、どんなこんな人があっても、力を合わせたり、ど力をすれば、それにうち勝ち、必ず成長できるとかくしんしました。そして、人は助け合って生きているのだということをあらためて思いました。これからも友達を大切に、外でたくさん遊びたいと思います。そして、自分がそうだったように、こまっっている人がいたら自分から声をかけてあげたいです。勇気がでた一言を。

と思うようになった。そして、今までをふり返って考えた。私はちゃんと園児の話を聞いて、理解していただろうか。まだ小さいからといって、軽く流していなかっただろうか。そう思うと自信がない。その人の話を聞いていると、なんだかやる気がわいてきた。そして最後にこう言って笑った。「意味ないことなんて、自分が意味ないと思わない限り、めったにないから。がんばってね。」私は、その言葉は将来の夢を追いかけるために、絶対忘れちゃいけない言葉だと思った。必ず保育士になる。そのための勉強も、がんばるとその人に告げ、職場体験は終了した。意味がないと、勝手に自分でラインを引く前に実行する。失敗から学ぼう。そう思えるようになったのが、自分の成長した所だと私は思う。

第四十二回 作文コンクール審査を終えて

審査委員長 府中市立若松小学校 泉 佳子

本年度のテーマは、小学校は「できるようになったこと・成長したこと」、中学校は「成長」でした。人は、いろいろな場面でのいろいろなことを頑張っています。自分一人の力だけではなく、家族や友達、先生、地域の方々との応援や励ましに支えられて毎日を送っています。そのような日々の中で、皆さんは頑張る自分に自信をもったり、新しい自分に気付きたりすることと願います。そのような自分に希望をもつてほしいと願います。このテーマを設定しました。四十二回を迎える今年度は、昨年度を五百点も上回る一万三千四百八十点の応募がありました。年々応募数が多くなり、中学生の応募も増えてきました。みなさんが頑張って作文を書いていることをうれしく思います。

これらの作品は二十二人の審査員の先生方を中心に、次のような基準をもとに、審査を行いました。

- 1 自分の生活体験から取材したものであり、作文を書いた人の成長が感じられる作品。
- 2 具体性があって、心に伝わってくる作品。
- 3 人権尊重を重視し、思索に深みがある作品。
- 4 表現力豊かで、読み手の心にしみ通る作品。
- 5 文章構成を工夫している作品。
- 6 学年相応に表現が正確である作品。
- 7 学年相応な字で丁寧に書いている作品。

以上のような基準をもとに、書いた人の主題や意図を考えながら、長い時間をかけて、丁寧に審査を進めました。その結果、ロータリー賞、金賞、銀賞、銅賞、計二百九十七人の優れた作品を決定しました。入賞されたみなさん、本当におめでとうございました。作品を読んでみると、皆さんが多く場面でのいろいろなことに頑張っていることがよくわかりました。うまくいかないことにもあきらめないで最後まで頑張る姿が目につくたび、胸が熱くなりました。

小学校低学年の作品からは、縄とびや鉄棒などがうまくなりたいと、一生懸命に練習している様子が伝わってきました。他にもお手伝いや授業で発言することなど、頑張っている場面がたくさん書かれていました。うまくいかなかったけれど、頑張っていることに、友達や家族の方の温かい励ましの言葉に支えられて、また頑張ろうとする素直な皆さんの姿が印象的でした。

高学年の作品は、何かに向かって頑張ったことはもちろんのこと、友達や家族、地域の方々の言葉から勇気をもったことだけでなく、できるようになったことを友達にも教えてあげたいという気持ちも書かれていました。日常の生活の中で、頑張ることによってどの人も自分の成長に気付くことができることが伝わってきました。

中学生の作品は、小学生より更に自分の内面に目を向けた作品が多かったです。部活で頑張ったこと、行事で頑張ったことなどから責任のあることを任されて、自分の中に変化が起きたことが感じられました。周りの人のアドバイスにより、今までの自分の中になかったものが生まれ、自分の中の何かが変わった、というような内容の深い作品がありました。自分の成長を自分の言葉で表すことはとても難しかったことと書きますが、書くことは、とてもエネルギーのいることですが、自分の思いを書くことの素晴らしさを感じてくださいます。一人でも多く、書くことが好きな人になってほしいと願っています。

このような機会を毎年子ども達に与えてくださる東京府中ロータリークラブの方々、府中市教育委員会の関係の方々、作品応募に協力し指導してくださった先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

課題

小学校低学年の部(2・3年生)
小学校高学年の部(4・5・6年生)
中学校の部

テーマ：できるようになったこと
成長したこと

テーマ：成長

・各学年とも題名は自由

《理事・役員》

会 員

会 長	野口忠直 (合名)野口酒造店					相川恭広 S M B C日興証券(株) 調布支部部長兼 F C課長					岸本光弘 (株)三越伊勢丹 伊勢丹府中店長					高野紘一 府中スポーツ代表者								
	直前会長 大木 稔 (株)大木組 代表取締役社長					荒井 清 多摩信用金庫 府中支店長					榎ヶ埜俊彦 (株)守屋商會代表取締役					田 中 昇 (株)タイレル代表取締役								
副 会 長	小林伸夫 サンコウ総合設備(株) 代表取締役					福島徹也 (株)セルパデス 代表取締役					松村英裕 医療法人社団根岸病院 常務理事					梅原勝彦 (株)エーワン精密取締役 相談役								
	副会長 松村信幸 (株)ブラックス 取締役会長					古谷正志 (有)八千代商事不動産 代表取締役					森 本 昇 のぼりや不動産(株) 代表取締役社長					宇都宮秀仁 (株)日華代表取締役社長								
理 事	松村一夫 (株)東京マツシマ監査役					濱中重美 (有)浜喜屋代表取締役					村上保裕 (株)マイテック 代表取締役					若 松 寧 医療法人社団和徳会 若松歯科医院 理事長								
	理 事 中 原 修 国際航業(株) 取締役相談役					市川恭秀 (株)金子園相談役					村 木 茂 (有)昇月堂代表取締役					和 久 哲 也 野村證券(株)府中支店長								
理 事	高橋晴彦 高橋興産(株)代表取締役					池田征士郎 (株)インテック防水 代表取締役					村野 猛 (有)村野商店代表取締役					山内聰美 大和証券(株)府中支店長								
	理 事 齋藤茂一 医療法人財団赤光会 斎藤病院常務理事					印部武順 (株)栃木家石材店 取締役会長					中村尚道 公益社団法人 調布市医師会顧問					吉野幹夫 (合名)よしの家代表者								
理 事	田中善雄 (株)府中植木代表取締役					井上常正 (株)青木屋囑託					小川一廣 学校法人田中育英会 東京エイトベルホテル 専門学校校長					吉岡孝明 天神町クリニック院長								
	須藤光忠 (株)三晃代表取締役					伊藤研二 (株)コーシン 代表取締役					大久保秋生 (株)共同印刷所 代表取締役					吉崎一郎 日本中央競馬会 東京競馬場場長								
会 計	塚崎 修 (株)八千代銀行 府中支店長					猪澤伊知郎 サントリビール(株) 武蔵野ビール工場長					大前 明 (株)クレスト代表取締役													
	幹 事 芝辻義治 京王建設(株)					十藏寺 新 医療法人社団新愛会 東府中病院院長					小 宅 肇 府中観光交通(株) 代表取締役													
副 幹 事	池上敦雄 (有)池代表取締役					加藤 茂 (株)八洲代表取締役					小澤俊夫 小澤法律事務所所長													
	佐藤靖生 一級建築士事務所 (有)佐藤靖生建築研究室 代表取締役					加藤吉松 加藤建設(株) 取締役会長					篠原 定 (株)篠原電気工業 代表取締役													
S・A・A					木村 力 (株)三菱東京UFJ銀行 多摩中央支社長					篠原 定 (株)篠原電気工業 代表取締役														
松山 晃																								
松山会計事務所代表																								